特集

74巻4号

環境リスク

環境問題は，公衆衛生の重要課題です．一昔前の環境問題と言えば，水俣病やイタイイタイ病など，特定地域における特定の原因による「公害」が主要なテーマでした．しかし最近は，様々な化学物質等が，環境を経由して，人々の健康や動植物の生育などに悪影響を及ぼすという「環境リスク」が注目されています．

いわゆる「公害」との違いの1つは，環境リスクの影響が広域的であり，地球規模の問題となりつつあることです．たとえば水俣病は，メチル水銀を原因とする特定地域の公害でしたが，最近は魚介類摂取を介した低濃度水銀曝露が問題となっており，その影響は地球規模です．また，環境リスクの場合は，原因者が不特定多数であり，一般市民の活動も環境汚染等をもたらす構図となっています．

内分泌かく乱物質を始めとする様々な環境化学物質は，健康被害との因果関係が不明瞭であり，リスク評価が難しいことも特徴と言えます．安全・安心のニーズが高まるなか，環境リスクについては，将来の健康影響を含めた評価方法やリスク軽減策に関する研究がますます重要となっています．

このような状況のなか，国際的には，すべての化学物質による人の健康への影響および環境への影響を最小化することが，2002年の環境サミット（ヨハネスブルグ）で合意されています．これに基づき欧州では，すべての化学物質を対象とした新たな規制が2007年から実施されていますが，わが国でも「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）」が2009年5月に改正されました．準備期間を考慮し，試行期日は2段階に分けられましたが，その第一段階改正が2010年4月の施行となりました．

そこで本号では，改正化審法の施行に合わせて，様々な化学物質等による環境リスクに注目し，環境リスクの評価に関する最近の研究成果，環境リスクに関連する健康被害の実態，および環境リスクの軽減に向けた対策面の研究や実践活動などについて解説や提言をいただきます．

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2010

2026/10/09 23:26:09